

雨のあと
金子みすゞ
雨のあと
日かげの葉っぱは
泣きむしだ、
ほろりほろりと
泣いている。
ひなた
日向の葉っぱは
笑い出す、
なみだの痕が
もう乾く。
日かげの葉っぱの
泣きむしに
たれか、ハンカチ
貸してやれ。

今年の梅雨は梅雨らしい梅雨ですね。

「雨」と言うと、マイナスに考えがちですが、幼稚園では、室内で物事にじっくり取り込め、交友関係も深まる、また、小さなお花や動物が喜んでいる……とプラスにとらえ、《恵みの雨》だと話しています。

そして、恵みの雨をくださってありがとうございます。とお祈りしています。

来年20歳になる男の子が小学校になった頃、雨が降った時に「恵みの雨だ」と話したそうで、そんなこと言うのは野毛山の子だけだと、いまだにそのお母さんが話をされます。

けれども、遠足や出かけるのを楽しみにしていた日が雨だと、《生憎の雨》になってしまいます。

《恵みの雨》も長く続くとやはり困ってしまいますね。

《雨》 対象は一つなのですが、私たちの気持ち次第で《恵みの雨》になったり、《生憎の雨》になったりします。

今月選んだみすゞさんの詩は「雨のあと」

みすゞさんは雨があがったあとの自然に目を向けています。

ほろりほろり…とは、調べてみると、①涙が続けてこぼれ落ちるさま、②声をあげて泣くさまとあります。

悲しんでいる葉っぱにだれかハンカチを貸してあげて…という発想は、なんと優しいことでしょう。

そんなところに目を向けることのできるみすゞさんはなんと素晴らしいのでしょうか。

雨が降っていると早く止んでほしいなと思うのが現実でしょう。

やんだあとの光景に目を向けると、草花が潤い、自然の輝いた世界があります。

心の中が雨の時、暗く悲しい気持ちですが、必ず雨はやんで、美しい世界、希望ある世界が待っているというメッセージでもあるのではないのでしょうか。

雨のちハレルヤ！

